

第 2 回神河町学校教育審議会 会議録

日 時	令和 7 年 1 1 月 1 0 日 (月) 1 9 時 0 0 分～ 2 1 時 0 0 分
場 所	大河内保健福祉センター 2 階 福祉講習室
出 席 者	会 長 川上 泰彦 副会長 大塚 一也 委 員 山口 偉一 藤本 悟 岸原 史明 上月 里香 宇那木 仁香 難波 隆彦 青石 美佳 浜野 建介 山手 隼平 藤原 嵩晃 小林 正一 小林 重喜 太田 雅己 黒田 市朗 森本 浩子 木下 映子 立石 浩
事 務 局	中野 憲二 教育長 児島 浩司 教育課長 羽岡 幹雄 教育課副課長 岩城 真介 指導主事 藤原 美江 教育課課長補佐 安平 りつ子 教育課係長 吉岡 正義 学校教育指導員
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

(1) 開 会

(2) 第 1 回会議録の承認

第 1 回審議会 主な発言趣旨・補足意見

(3) 報告事項

小規模特認校・特定地域選択制について

(4) 討議

①諮問 1

神河町立小学校・中学校の望ましい学級数・望ましい 1 学級当たりの人数

②諮問 2

神河町立小学校の校区の考え方

(5) その他

①第 3 回審議会日程について

②第 4 回審議会日程について

(6) 閉 会

2 審議内容

○事務局 定刻となりましたので、ただいまから第2回神河町学校教育審議会を開会いたします。開会にあたりまして、中野教育長からご挨拶を申し上げます。

○教育長 改めまして、こんばんは。本日も、ご多用でにくい時間帯にご出席をいただきまして、ありがとうございます。本日は第2回の学校教育審議会ですが、第1回の会議では、まだどういう会議なのかということが、少しご理解していただきにくかったかもしれませんが、当日のご発言等をお聞きになったり、こちらの議事録等を送らせていただきまして、あらためてこのような趣旨の会議だなというふうにご理解をいただけたのではないかなと考えております。第1回目から、皆様からは貴重なご意見をいただき、一定整理をさせていただきました。今日、前回のテーマをもう少し深めていただくこと、それから、小学校の校区につきまして、ご意見をいただきたいと考えています。限られた時間ではございますけれども、ご審議をお願いしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 続きまして、川上会長からご挨拶をいただきます。

○会長 皆さんこんばんは。第2回の審議会となります。どうぞよろしくお願いいたします。

私の職場の関係で、いろんな学校と関わりがあるのですが、そこからは、インフルエンザが流行っているという話が伝わっています。皆さんのお近くのところでも同様かと思いますので、健康には十分留意いただければな、と思っています。

第1回の会議では、非常に様々なご意見いただきましてありがとうございます。

会議の名前にもあります通り学校教育審議会ですので、幅広い意見が出るということのが何より、この会議の価値になってくるかなと思っています。今日も引き続き、活発なご意見いただければと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、まず、本日の会議の成立について報告をいたします。本日は、委員21名中、出席19名、委任状2名で、本会議は成立しているということをご報告申し上げます。

それではここからの会議の進行につきましては、川上会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長 はい。改めてよろしくお願いいたします。お手元に次第があります。

第1回会議録の承認、報告事項と、進めて参ります。まず、第1回会議録の承認について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 会議録につきましては、(案)として各委員の方にすでに、事前に送付させていただいており、修正等のご報告をいただいた内容につきましては、本日お示ししている会議録(案)として修正・反映しております。その上でなお修正等がある場合につきましては、この後ご発言いただくか、後程、事務局までお伝えください。そのことを含めまして、この後、ご承認をいただきたいと思います。ご承認いただければ、後日、町のホームページの方にアップし公開させていただきます。

続けて、資料1の説明をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○会長 はい。お願いします。

○事務局 資料1として、第1回審議会の主な発言趣旨・補足意見をつけさせていただいております。いわゆる論点整理をさせていただきました。論点整理を行いますと概ね3つに分けられました。

1つ目につきましては「望ましい学級数と1学級の人数に関わるような発言」です。その中でも丸を

つけておりまように、「複式学級か少人数の学級を容認する」ような発言、「一定の人数がいれば少人数の学級も容認する」ようなご発言、「一定の人数がいる学級の方が望ましい」というような趣旨のご発言、「学校の規模や学級の人数については迷いがある」という概ね4つに分かれるご発言があったように思います。2 ページ目には、2 つ目の「校区・地域との関わりに関するようなご発言」を載せております。3 ページ目につきましては、「通学方法に関するご発言」を載せております。皆様方からいただきましたご意見を論点ごとにまとめておりますが、内容について、若干違うとかニュアンスが違うような書き方があれば、この後の議論の中でご発言いただき補足いただければと考えております。

あわせて第1回学校教育審議会の際に出された質問についてです。2点ほどご質問をいただいております。議事録で言いますと、17 ページになります。

1 つ目は、「地域に移住されてきた方が小さな学校規模であるかということで移住してこられたというお話を聞かせていただいたが、一方で学校はそういう複式の学校なので、先々のことを自分の子どもの教育環境を考えたときに、その地域への移住をためらってしまうような方がいらっしゃるのではないか、実際に移住されていないので声としては上がってきにくいというのは思うが、そういう方々もいらっしゃるのか」というご質問です。

このご質問につきましては、神河町の移住サポートセンターに聞き取りを行いました。移住に関して、年間 150 件から 200 件程度の移住相談を受けているようです。一応希望される方の多くが、子どもの学校環境や、お父さんお母さんの仕事の環境、住居など、何らかの環境変えたい方が移住を検討されている、とお聞きしております。また、神河町への移住を相談される方は、兵庫県内でいいますと神河町が北限かつ西の限界、つまり、これより北ではなくこれより西ではなく、神河町が限界のエリアというふうに考えられていて、但馬や宍粟までは考えられてない、とのこと。神河町を移住先に考えられ相談に来られた方ですので、もちろん宍粟や但馬を希望される方は別にいらっしゃるというふうにご理解ください。神河町内の移住先の選択につきましては、10 年ほど前は長谷地域への移住を希望される方が一定数いらっしゃいましたが、近年は、子どもの通学環境や買い物の環境、お父さんお母さんの通勤環境によって住居を探される傾向にあって、神崎小学校区、寺前小学校区を中心に探される方が目立つとのこと。また、中学校の通学環境や高等学校進学時のことを考えて、JR を利用される方が多いことから、まずは寺前駅周辺を探される方が多いということをお伺いしました。現在は、利便性を重視して移住先を探される方が多い、と感じているとのこと。

もう1点の質問ですが、「小さな規模の小学校から中学校に入学したときの適応」についてご質問をいただきました。この点につきましては、このあと討議の中で関係する委員の皆様からご意見をいただきながら、補っていただければ、と考えております。

あわせて議事録の一番最後に補足意見を掲載しております。2 名の方から補足意見をいただいております。

補足意見①は「小学校統合が進められていることについては理解しており、小学校統合の方向性については基本的に賛成とします」とのご意見をいただいております。この点につきましては、第1回の会議での事務局からの説明が不十分なところがあったと反省しておりますが、今回の審議会に諮問した内容につきましては、学校統合ということにフォーカスしたものではなく、あくまでもお示しした3点について諮問させていただいているということでご理解をいただきたいと思います。しかしながら今後議論の中で、そのようなご発言も出てくることはあるかもしれませんし、委員の皆様の議論によって

は、答申の中でも触れられることもあり得ますが、現段階では学校統合ということについてのご質問に対する回答は事務局としては控えたいというふうに思います。ただ、ご意見として、この後の討議の中で出れば議論いただくための素材としては、扱っていいのかなと思っております。

次に補足意見②ですけれども、3点あります。「特任校制度についての県内事例や制度の内容などを教えてもらいたい」ということと「学校規模として、子どもたちの社会性を育むための児童数は」というものです。

これについては資料の2をご覧ください。資料の2に小規模特認校と特定地域選択制について、事務局で調べたものを記載しております。小規模特認校制度とは「従来の通学区域を残したまま特定の学校について通学区域関係なく、当該市町村のどこからでも就学を認めるもの」で、あくまでも、その市内、町内に限定したものである、というふうにご理解ください。小規模特認校制度は、文科省による「通学区域制度の弾力的運用について」という通知によると、学校選択制の1つで、特認校制度のうち小規模校において取り入れられている制度です。資料をご覧ください。メリットにつきましては「きめ細やかな指導」「特色ある教育活動」「豊かな人間関係」「学校や地域の活性化」また「学び直しや再スタートの機会」などというがある一方で、デメリットとしては「人間関係の固定化」「競争心の不足」「中学校進学後の適応」「教員の負担増加」「保護者の負担」「学区内の友人関係の希薄化」ということが一般的に言われているとのことです。

その次のページには、県下の特認校の状況を掲載しております。神戸市では六甲山小学校と藍那小学校の2校。宝塚市では小学校1校と中学校1校。三田市では1校、姫路市におきましては苅野小学校と安富北小学校に導入しています。姫路市教育委員会に聞き取りをしましたところ、今後、この2校以外について新たに導入することは考えていないということです。西脇市については双葉小学校で平成19年度から実施されておりますが、令和10年度に閉校することが決まっております、比延小学校と統合することと、統合後については特認校制度は実施しない、と公表されております。豊岡市については1校、養父市については建屋小学校1校。猪名川町では揚津小学校と大島小学校の2校で、8市町で11校に小規模特認校制度が導入されております。

次のページには特定地域選択制について掲載しております。これは従来の通学区域、それぞれの校区は残したままで、特定の地域に居住するものについて学校選択を認めるもので、猪名川町においては、猪名川中学校の校区の生徒は清陵中学校も選択することができるものです。県内では我々が今考えています特定地域選択制を導入されているのは1校、ということでご報告をさせていただきます。

3点目として、「学校規模として、子どもたちの社会性を育むための児童数は」というご質問もいただいておりますが、これはまさしく諮問内容の①、神河町立小学校・中学校の望ましい学級数、望ましい1学級当たりの人数に当たると考えております。この点につきましては、教育でつける社会性や子どもたちにつけて欲しい力などの点について、この後の議論の中で、それぞれの立場や経験によって各委員からのご発言をいただければ、と考えております。以上で補足意見・質問について説明とさせていただきます。

○会 長 ありがとうございます。後半説明いただいた小規模特認校、特定地域選択制についてはこの後の次第にも報告事項として挙がっております。それを受けて討議に入って参りますので、ここについての質疑等々については、機会を改めることにします。

まず、次第の2の会議録の承認ですが、前半ご説明いただいた会議録について、何かこの場での改めて

の質問、修正のご意見等ございますでしょうか。

特にございませんようですので、第 1 回の会議録について、ご承認をいただいてもよろしいでしょうか。

(委員承認)

ありがとうございます。それでは第 1 回会議録につきましては承認されました。続いて、次第 3 に報告事項として小規模特認校、特定地域選択制について、という項目が挙がっていますが、ただ今事務局から説明のあった内容でよろしいですね。

(事務局確認)

では、今説明いただいた内容についての質疑に入りたいと思います。事務局から説明がありました小規模特認校、特定地域選択制それぞれについて、感想でも結構ですし、もう少しこの部分を知りたいというご意見、ご質問、いずれでも結構ですので挙手の上、ご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

事務局にお聞きしますが、特定地域選択制については、1 校のみの実施例があるということですが、校区の大小関係がよくわかっていないところがあります。どういうタイプの校区に対して、どういう学校への選択を認める形になっているのか、ということを少し補足いただけますでしょうか。

○事務局 猪名川町の猪名川中学校で実施されている特定地域選択制ですが、猪名川中学校は大規模校、一方の清陵中学校は小規模校ということで、大規模校よりも小規模校で学ばせたいという保護者や生徒がいた場合について、この特定地域選択制を適用するので、いわゆる大規模校から小規模校への選択ができるというものです。

○会 長 ありがとうございます。そうすると小規模特認校制度というのは、町内どこからでも小規模の特定の学校に向けての就学を認めるという仕組みで、一方、特定地域選択制については特定のやや規模の大きな学校から、小さな学校に向けて就学する学校を選び変更したいというときにそれを認める仕組みという理解でよろしいでしょうか。

○事務局 猪名川町の特定地域選択制は大規模校から小規模校を選べるものですが、逆のパターン、小規模校から大規模な学校に行きたいという時にもこの制度を導入し利用できる、ということでご理解いただきたいと思います。

○会 長 小規模から大規模の選択もあり得るという事です。整理しますと、小規模特認校の場合は、町内いずれの校区からも特定の学校への通学を認めるという仕組みで、特定地域選択制については、特定の校区に対して別の校区の特定の学校への進学を認めますという制度で、入りと出の区域設定が少し違うというような理解でよろしいでしょうか。

その他いかがでしょう。大事なキーワードとして出てきていた制度だと思いますので、今のうちに確認されたいことございましたら、挙手いただければと思いますが。いかがでしょうか。

○委 員 資料 2 の 7 ページの表ですが、学校名の後ろに「何々制度利用」という人数が書いてあるのですが、これはどういうふうに理解したらいいのか、ご説明をお願いします。

○会 長 事務局よろしいですか。

○事務局 まず一番上の六甲山小学校でご説明させていただきます。六甲山小学校では在校生は 1 年生

から 6 年生で、全校児童が 64 名在籍しておりますが、うち 49 人が小規模特認校制度を利用されているとお読み取りください。

○会 長 そうすると、引き算をすると、もともこの小学校区からこの学校に通学している人が分かるという理解でよろしいですね。

見ていただいておりますが、かなりの部分の特認校制度を利用している子どもがいるという学校もあれば、この仕組みを使っている校区の子どもたちが数名という学校もあり、かなり幅があるなということをご理解いただけるのではないかなと思います。その他いかがでしょうか。

○委 員 引き続いてその下の小学校ですけれども、この学校は全員が校区外の児童ということなり、もともとの校区には子どもが誰もいない学校にこれだけ生徒が集まって学校が成り立っているということでしょうか。

○会 長 事務局をお願いします。

○事務局 神戸市教委によると、神戸市立藍那小学校は北区にある小学校で、在校生 46 人全員が小規模特認校制度を利用して通学している、とお答えをいただきました。学校は、神戸電鉄の藍那駅から近いところにあり、違う校区からも非常に通学しやすい環境に立地していると聞いております。なぜ校区の児童がゼロなのかということまではお聞きしておりません。いないという理解をしております。

○会 長 その他いかがでしょうか。

○委 員 すみません。とても初歩的な質問なのですが、また具体的な学校名を出す必要はないのですが。例えば、小規模特認校制度を長谷小でスタートできれば、もちろん長谷小に、町内の神崎小や寺前小からも通学することができると考えたらいいのでしょうか。またあわせて、特定地域選択制も導入すれば、長谷小の校区からも寺前小とかに行くことができる、というふうに考えたらいいのでしょうか。ということは、長谷小については特定地域選択制も入るし小規模特認校制という、2 つの制度を同時に導入することになるが、それは可能なのでしょうか。県内には 2 つの制度が同時に入っている所はなかったので、教えてもらったらと思います。

○事務局 おっしゃっていただいた通り小規模特認校制度を導入すれば、神河町内のどの校区からでも、指定校に行くことは可能です。また、特定地域選択制というのは、特定の地域、例えば特定の区であったり、特定の校区に住んでいる隣の校区の小学校に行くことができる、という制度設計にすれば、両方の制度を入れることは可能であると考えています。

○会 長 いかがでしょうか。すみません。まだ自分の中で整理が及んでいないのかもしれないのですが、2 つの仕組みを同時に入れるということと、組み合わせ如何なのかもしれないのですが、町内で自由な学校選択ができる制度とは、ちょっと隔たりがあるという理解でよろしいでしょうか。

○教育長 先ほどの事務局の説明は仮の話ということになります。第 1 回の会議で申し上げましたけれども、本来であればこの会議でいろいろご意見いただいて、そのご意見もお伺いしながら、その後は教育委員会として議論し決定していくこととなりますので、今の段階で神河町としてこういう制度を入れたいということはちょっと申し上げにくいところがございます。従いまして、先ほど具体的な学校名が出ましたけれども、理解しやすいように、「もし仮に、そういうことをすればこういうことが可能なのか」という一般的な質問をされたというふうに理解をしております。ただ現在町内にある 3 校の小学校につきまして、この後の校区の議論の中に出てくると思いますが、やはり「地域性」でありますとか、第 1 回会議のときに「統合のためにそれぞれ文化或いは伝統というのが失われていく」というよ

うなご発言もありましたように、現在あるそれぞれの小学校についての「地域の肌感覚」とでもいうべきご発言もお聞きして考えていく内容かな、と考えております。ちょっと難しいかもしれませんが、現在の神崎小学校の状況、寺前小学校の状況、長谷小学校の状況それぞれの状況がございますので、そのあたりのところを、この後ご発言をいただきながら、総合して考えていくことになると思います。この段階で事務局が何か結論めいたことを申し上げるという状況ではないのかな、と考えています。

○会 長 すみません、出過ぎた質問をしてしまいました。ありがとうございました。

新しい言葉が出てくると、つい引っ張られがちになります。おそらく、今回ご提示いただいている2つの仕組みっていうのは、これも選択肢の1つだったり、考え方の1つでしかないわけで、大事なところは議論しながら求めていきましょう、ということをおきながら、それに適した道具立てをどう考えていくかということになるかと思います。なので、あまり焦らず、この後の会議の中の議論を受けて考えていきましょう、ということが適切かなと思った次第です。

その他、この報告事項につきまして、何かこの段階で確認をされたいこと、質問しておきたいことございましたら、挙手いただければと思います。いかがでしょうか。

(委員に確認)

よろしいですかね。この後の議論の流れの中で引き続き、ちょっと戻って確認したいという場面が出てきようかと思いますが、ひとまずここで一旦区切って、今回いただいたご説明の中身を踏まえつつ、4番目の討議の方に移りたいと思います。

今日の討議の柱としては2つ挙がっています。諮問の1つ目である「小学校・中学校の望ましい学級数、望ましい1学級当たりの人数」ということですが、学校規模についてのざっくりとした感覚の部分を、前回に引き続いてもう少しの間、前回に引き続いてご議論いただければ、と思っております。それから諮問の2つ目である「小学校の校区の考え方」ですね。これは、先ほどの報告事項とも大きく関わってくるところになるかなと思います。校区の考え方とは、「町内の隣接校区の行き来を全く考えない」という校区のあり方というのも1つです。そうではなくて「ある種の行き来を可能にしましょう」という校区の考え方が、2つ目の仕組みかと思います。校区の件は、この後もう少しご発言をいただく「望ましい規模」について、どういう形で実現をしていこうかというところと関係する2つ目の柱になってくると思います。前回の諮問の1つ目に関わりまして、神河町の現状から考えて、現時点での町内の学校、学校のサイズ感をどんなふうに見ていらっしゃるかについて、たくさんの方からお話をいただいていたのですが、まだ一部の委員の方々からのお話を聞ききれていないところもございました。少し補足的にでも構いませんので、前回ご発言いただけていない委員の皆様からお話いただきたいと思います。私から言いたい、という方がいらっしゃったら挙手をいただければというふうに思いますが、いかがでございましょうか。

○委 員 失礼します。この「望ましい学級数、望ましい1学級当たりの人数」ということですが、文科省の方では一番多い人数は35人ということが決められています。それを超えれば2学級になるということになります。私は教師になってから、複数の学級の学年を持ったことはほとんどないです。ほぼすべて単学級という学校ばかりに勤めてきました。最初にいた学校は資料の中にある学校で、今は小規模校特認校になっている小学校です。その小学校が統合する前に新採用で入り、勤めて3年経った後に統合しました。統合後もどんどん人数が減ってきたので、その小学校もこのような制度を使わ

れているということかなと思います。

その後、神崎郡の方に勤めさせていただくことになりまして、1 回だけ 21 人ずつ 2 クラスの学年を経験しました。そのときはまだ 40 人学級のときだったので、高学年では 40 人のクラス担任をしたこともあります。郡内で 2 校目に勤めた小学校ではもう複式になっていましたが、私が勤めているときはまだ 10 数名の子どもがいました。そのクラスの担任をさせてもらって、その後神河町の小学校に勤めさせていただきました。

子どもたちに個に応じた指導や細やかな指導をしていくという点でいえば、本当に 40 人の担任をしたときについては、まだ私も若かったときですので頑張っていた部分もあるのですが、1 人で全員の子どもたちを見るということの教師としての力量が試されるぎりぎりの人数が 40 人かなと思います。10 数名の小学校の時は、子どもたちの意見や話し合いもすごくちゃんとできますし、高学年としての活動というのもできました。ただ、前回に長谷小学校の校長先生からお話しされていたように、人数が少なくなってくると、どうしてもその高学年だけではできにくく、他の学年にお願いしないといけないってこともありました。運動会で 1 つの競技をするにあたって、中学校の生徒に手伝いに来てもらわないと準備等ができないっていうことも実際にありました。

「望ましい学級数・人数」というのも、その辺りが判断の材料かなと思います。ある程度の人数がいると子どもどうしの関わりっていうのがあるのも確かですし、あまりにも増えて大人数になりすぎると、そのあたりの難しさというのも感じるかな、と思っています。

○会 長 ありがとうございます。いかがでしょうか。関連してでも結構ですし、その他、まだご発言いただいていない委員の皆様方、よろしくお願いします。

○委 員 私も学校現場で 30 数年勤めて、町内の小学校でお世話になっているのですが、経験上の話をさせていただきます。

先ほどの委員もおっしゃったように、私も若い頃は郡内の南部の学校で一学年で 100 人という学年も経験しました。やはり人数の多い学校は、クラス替えが毎年あって、とても子どもたちが新鮮で、高め合いもできているという雰囲気がずっと培われています。ただ、人数が多ければ、教員が「今日あの子としゃべったかな」と、学校から帰るときに、ふと思ったりとか、なにか子ども 1 人 1 人が見えてなかったり、ということも多いです。でもそのあと小さい学校に勤務すると、やはりよく子どもたちが見えますし、担任としては子どもたちへの関わりはすごく多いなと感じました。少人数が悪いわけじゃないのですが、多すぎるよりもちょっと少な目の方が、子どもたちとの関わりはとても深くできるような感じがします。

また、実はもう閉校になったのですが、町内の小学校にも一度勤務したことがあります。その時は全校生徒が 20 数名でした。1 年、3・4 年、5・6 年、という複式 3 学級でした。ただ、そのときも各学年に 4 名から 5 名ずつぐらい子どもがいたので、低・中・高学年でくくれる、そういう学校の組織から生まれる文化がありました。高学年が優しく低学年を指導するとか、中学年や低学年は、頑張っている高学年を見て「あんな高学年になりたいなあ」とか、学校全体が家族みたいで温かくて、地域も温かくて、本当に子どもたちは仲良く家族みたいに過ごせていました。ただ、やはり、前回の会議で長谷小の方からも出ていました通り、授業の中で子どもたちが意見を出し合って、もみ合って、高まっていくとか、ということになってくると、やはり人数が少ないことから、担任としては苦労しました。ある年、1 名だけの学年を複式で担任した時に経験したのですが、一問一答でこちらが尋ねたことに対してその

子が1つ答えて、それがもう正解だったらすぐ次の学習に入ってしまう。そこでその子にもう1歩進んで考えさせてあげたいという思いから、担任の方から、「いや、これはどうなんだろう」という、あえて違う意見を子どもに伝えてその子に考えさせる、というような工夫・苦勞をいっぱいしていきながら、少ない人数でも何とか子どもたちの学力とか、仲間意識とかを育てていこうとしていた時代だったと、思い返しています。

転勤していく中で、幸せなことに長谷小学校にも、20数名子どもたちがいたときに勤務させていただきました。20数名の子どもたちが全校で合奏したり、合唱したりということに自然に取り組めたという時代もありました。その時も低・中・高学年の完全複式の3クラスで、高学年が低学年を引っ張っている状況がありました。ただ、人数が少ないために、なかなか外に行くチャンスがなくて、子どもたちが校区外に出るとドキドキしてしまう、内にこもっているわけじゃないのだけれども、外に出るとちょっと自信をなくしてしまう、ということもありました。そこで、以前から取り入れられていた、和太鼓の砥峰太鼓の取組を通して、方ぼうへ出かけていって大勢の前で太鼓を叩くという経験もさせていながら、子どもたちに自信を持たせて、大きな中学校へ進学させたいということを考えました。

当時の担任たちは頑張って、太鼓の取組だけでなく、環境学習の発表で県大会に行ったり、情報学習の一環でロボットのP e p p e rが学校にありましたから、そのP e p p e rを活用した学習を通して福島県に実践を報告した子どもたちもいました。ただ、校内だけで「多様な意見を引き出す学習」というのはなかなか難しいので、当時もお願いして、町内の交流学习として隣接の学校に行かせてもらいました。チャンスさえあれば、なるべくいろんな学習を大人数の中でともに学習するという交流学习を、できるだけ多く取り入れたいと取り組みました。先生も移動やら打ち合わせやらがあつて大変で苦勞はしたけれど、そういった場を設けることで、少人数ではできないところを交流学习で何とか補っていたような記憶があります。

○会 長 ありがとうございます。いかがでしょう。発言いただければと思います。

お願いします。

○委 員 失礼します。今年度、小学校に着任させていただきました。それまでは、8年間、中学校の方で教員をしておりましたので、長谷小学校からの卒業生をずっと受け入れてきたことになります。その時に感じていたこと、また、今、小学校の校長となっていて感じていることなどを含めてお話ししたいと思います。

神河町では、子どもたちが幼稚園や小学校にいる間に、長谷小の校区の子どもたちと寺前小学校であったり、神崎小学校であったりしますが、子どもたちの交流がこんなにあったんだと、びっくりしているところです。自然学校とか修学旅行は町内の学校で一緒に行く、ということは聞いていたのですが、他のいろんな活動についてもこんなに一緒にしたり交流したりしていたんだ、ということに驚いています。

中学校に勤めていた時に感じていたことは、本当に、長谷の地域の方々や先生方に大切に育ててもらったからこそ、こんな優しい心を持った子どもたちに育ったんだなあと思いました。長谷小の子どもたちはいつも本当に素朴で、とても優しい子が多かったな、というふうに思います。ただ、もし早くからもっと多い人数の中で接していたら、この子たちの中学校生活が、また違ったものになったのではないかな、というふうに感じることもありました。

小学校の間は1学年の人数が少ないので、いろんな役割を与えられて、自分でやりこなしていくとい

うことに慣れていたと思うし、先生方との相談・面談ということで、仲間というよりは大人とのコミュニケーションって言うのでしょうか、そういう場面もたくさんあった上で、いろいろなことを成功させてきたと思うんです。しかし、中学校に入学して、生徒同士、子どもたち同士という場面が多くなっていく中では、なかなか自分から声が上げられないっていうようなことがあります。例えば、生徒会であったり専門部の部長や副部長というような、生徒の中心になるような立場にいきたいなと思っていてもいけない、というようなことがあって、やっぱり「もやもやしたもの」を感じている子どもがいたのは確かです。なにか「自分から言えないんだけど、立候補したいんだけど」「生徒会としてみんなの前に出たいんだけど、立候補したいと自分から言い出せない」っていうような思いを持っていた子どもたちもいたと思います。それから、大勢の中ではなかなかパッと自分を出せずに、ちょっと学校に行きにくくなった、という生徒もいたような気がします。

多分、今の保護者の方や、おじいちゃん、おばあちゃんの年代のころは、それなりに人数がおられたころだと思うんです。私が中学校に着任したときも、まだ3クラスに分けられるだけの人数がいました。今、中学もそんなにクラス数が多くなっていません。おうちの方や先生方の中に「同じ地域の子たちをできるだけ同じクラスにして、何とかコミュニティを保ってやって欲しい」というような思いがあったとしても、1つのクラスに同じ地域の子をかためるということは、他の地域の子たちのクラス編成に影響が出てしまいます。中学1年生のクラスを決める際に、小学校の先生に相談するというのも実際はありました。

子どもたちってどうしてもトラブルも起こしますので、一緒のクラスにしない方が多分お互いうまくいくだろうな、という子どもたちがいたりもするんです。もちろん喧嘩もするしトラブルがあっても、話し合いをして、またそのあと、うまく仲良くなっていけることもあるんです。もちろんうまく仲良くなっていくほうが多いんですが、学年が1クラスだけだと、どうしても最後までこじれてしまい、人間関係を上手く直せないまま6年間過ごさなければならなくなるケースもあります。その点、中学校は複数クラスあるので、入学の機会にクラスを入れ替えてあげるというようなこともできるんです。それはもちろん一つの学校で少なくとも5人とか6人とか、もうちょっとたくさん児童がいる場合なんですけど、例えば6人が一緒に中1で同じクラスになったら、友達関係の広がりはどうしても他の小学校から来た子どもたちよりも、1つ、1歩遅れ、そのまま2年生3年生になるにしたがって、どんどんその差が広がっていくことになります。

やはり、この入学時という取っかかりで長谷小の子どもは1歩遅れてしまう、というようなこともあったのかなと思います。もちろん、生徒会長が長谷小出身の子ということもあったので、長谷小だから全てあてはまるとかいうわけではありません。逆に他の小学校出身でも、同じような思いを持って同じような表現しかできない子ももちろんいるとは思いますが。

ただ、大人が思っている以上に、子どもたちって不安要素をいっぱい抱えて入学してきていて、彼らもそのことを自分自身で振り返っていくと思います。例えば「学校の中心になって頑張っていく力」であったり「友達といろんな感想を言い合ったり、活発な意見を出し合ったりする力」など、せっかく持っている力を十分に出し切れないまま卒業していくのは勿体ないな、と思っているところです。長谷小の子が皆大人しすぎるというわけではないんですが、中学校に入ってきたときのことを考えたとき、もうちょっと早くから他の小学校の子どもたちと同じような経験をしていたら、もっともっと積極的にいろんなことに挑戦できたんじゃないかな、と今、思っています。

○会 長 ありがとうございます。

○委 員 私は小学校の教頭を勤めた後、昨年中学校に着任させていただきました。小学校のことも中学校のことも両方見てきて感じることをお伝えできたらなと思っています。

たまたま自分も福崎の小学校を卒業する時、別の小学校の卒業生と一緒にあって、統合した中学校の1回生になるという経験をしました。今から45年ほど前のことです。中2の7月ぐらいになり「中学校が来年統合するからと」何の前ぶれもなく言われ、「ええっ」とみんなで言った思い出があります。「じゃあどうなるんだろう」という思いで中学校に行ったのですが、たまたま自分は、大きい学校で仲間と一緒に、というのが好きな性格であったことが今の交友関係の広がりにつながっており、中学校の同窓会の会長をさせていただいていると思っています。当時中学校に入学した120人のうち、小さい小学校出身者が4分の1ぐらい居たんですが、やっぱり適応しにくく、今だに当時の中学校に良いイメージを持っていない人もいます。

自分の教員としての経験でいうと、神崎中学校と大河内中学校が統合した年に、たまたま神河中学校1回生を担当することがありました。この子供たちはどうやって2校が交わっていった神河町の統合の象徴となっていくのかな、ということで気を遣いました。その経験から今、校長として見える姿、生徒の思いは一体どうなのかな、というような点について感じるところを今日お話できたらな、と思っています。

「中1ギャップ」とよく言われるんですけど、これは何も長谷小にかぎらず、全員にあります。そこで生徒によっては、入学後1年生の間は同じクラスにする、という対応をしております。その理由としては、やはり戸惑いとか気後れがあるのではないかと、それ以上に仲間関係、友達関係のプレッシャーもあるんじゃないかと、ということに配慮した対応です。「中1の4月から自分らしく生活できた」と言っている生徒がいる一方、「慣れるのに5月の終わりぐらいまでかかった」と言っている生徒もいます。教員の目からは適応するのに1年ぐらいかかったという生徒もいます。9月の体育大会後ぐらいから仲間意識が非常に高まって、関係が良くなっていったという生徒もあり、行事を経ることによって仲間関係の中でお互いが認め合って、少しずつ馴染んでいき、堂々とできるようになっていくのかな、ということが見えました。

1年生は、4月から適応している生徒もいる一方、部活に所属していない生徒の場合は、共通の話題がやっぱり少ないというようなこともあってなじみにくい、というのが1つの課題かなと思います。長谷小以外のところもみんな同じです。長谷小の子は今のところ全員不登校にならずに毎日通ってきています。やっぱり一番大事なかなと思えたのは、生徒会長を務めたり、専門部の部長とか副部長にもなったり、合唱コンクールで指揮者や伴奏者も務めるなど、行事などで中心的な役割を担っている中で、認められたり、やりがいを感じたりすることができたら、その後は自信を持って生活しているので、そのことが上手くいけば大人数、少人数というのはあまり関係ないかな、というような感じがします。やっぱり一番大事なのは、自己有用感であるとかその所属感をいかに持たせるか、ということかなと思っています。ただ、やっぱり家族の支え、これがないことには、子どもも1歩前へ進めないということになります。

私も小学校の教頭をしていたのでよく知っているのですが、小学校の時にはいろんな行事を経験して中学校に入学している、ということです。長谷小と寺前小が交流授業をしたり、臨時で神崎小に行かせていただいている「にじいろ教室」であるとか「命の大切さ学び教室」という授業を一緒に受けたり、

また、自然学校で過ごす 4 泊 5 日の経験が中学校に入ってから交友関係の広がりについていい影響を与えているんじゃないかな、と感じています。長谷小の子どもが壮行会であるとか体育大会の時に、太鼓を叩く役割を努めたりすることもあります。そうやって自信をつけていっていることも事実です。そういったことが「中学校に入ってからどういう適応するのか、どういう心配があるのか、実際のところはどうか知りたい」という質問の回答になろうかな、と思っています。

それから、先生との距離感の件もありますが、教員は意識して声をかけています。入学当初は、できるだけ子どもたちに寄り添って声をかけており、そんな働きかけがあるので何とか中学校のスタートを、無事、波に乗るまで一生懸命頑張っていて、学級の方も築いていってくれているかなというふうに感じております。ですので、多少の個人差はあるにせよ、1 年生の間に大体馴染んで、しっかりと中学生活が送れるようになっていくのが現状かな、と思っています。

もっとも私は、昨年から中学校に来たので 1 年しか一緒にじゃなかったんですが、今の子どもたちを見ていてそんなふうに感じています。

○会 長 はい。ありがとうございます。やや顔の見える話がありましたが、そこは十分ご配慮いただきたいと思います。

前回まだお話をいただけていなかった委員からの意見も聞いていただいて、いかがでしょう、普段、地域からどういうふうにご覧になっているか、というところからの、お考えや、ご感想などいただければと思うんですがいかがでしょうか。

○委 員 以前、町の合併のころ学校統合にちょっと関わったことがあります。その頃から見ると、小学校の人数は大変少なくなっております。ここ 2、3 年、区長として運動会や学校の行事にいろいろ関わるんですけど、昔ほど地域の人が学校に来てくれない、ということがあります。以前だと親もたくさんいましたし、孫が学校にいますので、おじいちゃんやおばあちゃんも見に来ていたと思うんですが、最近では、地域の人との関わりが少なくなっているのは感じます。区長らで参加することも大変少なくなっております。地域としては、「小学校が地域に無いのはいけない」という意見は、昔程ではなくなっているのかな、と思っております。昔だったら、「子どもは地域にいてくれなければだめだ」ということを言っていたんですけども、最近はそのような意見がほとんどない。逆に、「小学校が少ないから、生徒が少ないから、ちょっと気の毒だ」という意見の方が多く私は感じています。

長谷小学校の振興を考える会が前ありまして、1 回だけだったんですけど川上の区長と一緒に出席したんです。川上の区長は、「長谷小学校に合併したときは、川上小が 13 人ほどと、大変少なくなったときに合併した」ということを言われていました。

その頃から見ると、今、長谷小の人数は半減しています。ですから、直接「地域として学校を残してくれ」という意見はほとんど聞かない。小学校の子どもたちが、先生に指導されて授業や運動会をしている、というのはよくわかるんです。でも、こんなことを言ったら怒られるかもしれませんが「気の毒だな」という意見の方が強いんです。ですから「もっと伸び伸びと子どもたちが学校でやっている姿を見たい」という意見は「ちょっと違うな」と思っています。

移住してきた人が何人かおられて、その方たちのお子さんが小学校に通われているという現状があります。この人たちは、インターネットか何かで、長谷小学校の現状を見られたか、移住するに際しての補助金等のメリット・デメリットを考えて移住してきた、というような意見を言う人もあります。また、そういう方たちは「地域で子どもたちが守られている」とか「見守られて成長している」とかいう

意見を言われますけれども、それは「ちょっと違うかな」と思っています。表現の仕方が悪いかもしれませんが、今まででも今も、地域としては「守る」とか「見守る」ということを特に意識せず、普通に子どもたちが生活しているのを見ていたんだけど、最近は子どもが少なくなったから、子どもと関わるときには「大事にする」とか「見守る」とか、というふうに見えたり感じられる部分が増えただけじゃないかな、と思います。私の集落も、学齢の子どもがいない時期があったんですけど、最近になって、幼稚園、保育所に行く子は2、3人に増えました。周りの人もお年寄りの方も「子どもが増えたら喜ばしい」とは言われるんですけど、幼稚園に行って小学校に行くってなるときには「そんな少人数で大丈夫なのか」という意見の方が強いんじゃないかなと思います。前回、なぜ私は意見を言わなかったかと言うと、皆さんの意見を聞きたかったからです。

○会 長 いかがでしょう。

○委 員 意見じゃないんですけども質問です。複式学級ということについて、私はあまり知らないんでちょっと教えて欲しいんです。1つのクラスで2つの学年が同時に授業するということですね。それは、授業がもう片方の学年に邪魔になってしまうとか、そういうことはないんでしょうか。

○会 長 ありがとうございます。事務局でいいですか。

○事務局 ここは事務局というよりは、小学校で実際にされている2パターンぐらいをご紹介いただけたらと思います。

○会 長 お願いします。

○委 員 完全複式学級の場合は、県から加配教員をいただいて、国語、社会、算数、理科については別室指導をしています。ですので、仮に4年生が6人、3年生が2人の場合は、片方の4年生の6人は算数を教えて、3年生の2人をまた別の先生が教えているというのが完全複式学級の学習スタイルで、4教科に限っては、そのように勉強しています。音楽、図工、体育、道徳に関しては、同時に、5年生の音楽を勉強したり、6年生をちょっとかじったり、もしくは、この1年間は5年生の勉強をずっと続けて、次の1年間に、6年生の勉強をやるというやり方、これをA式、B式といいます。そういう方式をやったこともあります。家庭科とかでは5年生でありながら、6年生の勉強をして、次の6年生になってから5年生の勉強をするということが起こり得るんです。なので、急な転出があったとき等に、学んでいないことがあってはいけない、っていうことで、できるだけ、当該の学年の学習内容を勉強しています。ただし、人数が少なく意見が出にくいので「多様な考えを引き出す授業」にまでは至っていない、というジレンマがあります。現在は2年生と5年生は0人、1年生は1人と子どもたちはすごく少ないので、A式、B式をとることができません。学年の組み合わせによっては、5年生の勉強を先にして6年生の勉強を後にするという学級の学習スタイルも完全複式だったらさっといけるんですけど、変則複式学級ではできません。変則複式学級というのは、現状で言えば、2年生がいないから、1年生と3年生とがドッキング、5年生がいないから4年生と6年生とかドッキングしていています。そうなると、A式、B式みたいな感じで、隣接学年で勉強することができません。1年生と3年生の授業というのは、言わば、中1で入った子が中3の勉強をするのと同じです。でも、そんなことをすることはできないので、その学年に応じた内容にカリキュラムを組み直し、時間割も本当に複雑な時間割を組んで、その子たちの学習レベルに合う内容で授業をするようにしています。

複式っていうのは、いつも1・2年、3・4年、5・6年という形になるわけではないので、苦労はつきません。

○会 長 ありがとうございます。大事な部分をお話いただいているんじゃないかなと思いました。ありがとうございました。

これで一通り、各委員からお話伺えたと思います。途中、事務局からお話ありました通り、学校の設置形態をどうするということは、特段、何か目指すべき答えとして想定しているものではございません。様々なあり方について意見を出していただきましょう、というのが大事な趣旨になって参ります。

「望ましい学級数」とか「望ましい1学級当たりの人数」というところで、今、討議しています。「望ましい人数がこうだ、これに合わせるんだ」ということがやりにくい環境が神河町にはある中で、これどう考えるかということになろうと思います。いかがでしょう、今日まだご発言いただいてない方、お願いします。

○委 員 この「望ましい学級数、望ましい1学級当たりの人数」についてです。

私自身、9年前に移住してきたんです。もともと自分がいた地域は当時、小学校で6クラス、中学校で8クラスありました。子どもがちょうど幼稚園、保育所に行く年齢になったぐらいのタイミングで移住することになったんです。その時に考えたのも、「大きなところじゃなくて、少ない人数で育った方が、この子たちにはいいかな」ということで、判断の材料の1つではありました。当時から十分人数が少ない方の学校だったと思うんですけど、実際のところ子どもたちは満足して行っています。

資料では人数が少ないメリット、多いことのメリットがそれぞれ列記されていますけど、よく読んでみると、例えば少人数のメリットは、大人数のデメリットですし、大人数のメリットは少人数のデメリットになりうるんですよ。だからメリットとかデメリットとかを見比べて、何がいいのかと決めるものではないんじゃないかな。言ってみれば、今の状況っていうのが、もう望まれたことであるんじゃないかなと思います。「人数は多い方がいいから人数多くしましょう」と言っても人数を多くできるというものでもないです。

今まで、さんざん長谷小の話が出てきますが、先生方がご苦労されている状況なんかをちょっと聞いていただけてもすごく大変だなと思うんです。そういう中で、例えば小規模特認校とか特定地域選択制なんかを導入することで、長谷小に行く子どもが増えるのはいいかな、と思うんです。けれど、結局全体の人数・パイは変わらなくて、分散するだけになる。集まったパイも、少子化の中ではこれからはどんどん小さくなっていく、ということも踏まえて考えていかないといけないのかな、と感じています。だから「何が望ましいですか」と問われても、「望ましいものがあったって、それを目指せない状況にある」ことが、委員の皆さんが意見を出すのに困る部分じゃないかな。今の状況とかをお伝えすることはできますけど、「望ましい」と言われれば、望ましいものとかいくらでもあるので、それが「望ましくないから、やめとくか」というわけではないと思います。なので、それこそ「統合」とかもそうですし「じゃあ望ましい形になるように何とかしていきましょう」ということに意見を出し合う、という流れにさせていただいた方がいいような気はしています。

○会 長 ありがとうございます。大事なお話かなと思います。いかがでしょう。関連してでも結構ですし、関連しない形でも結構です。

○委 員 先ほどの話にまさしく共感するところで、私もこの小規模特認校は、非常にいい制度だな、と感じました。というのは、選択肢を子どもたちの側が持てるんじゃないかな、と思ったからです。「望ましい数はこうだ」とかいうのは経営側の話であって、今までは行政なり教育委員会が「全国的に見るとこれが一番効率もいいし、教育的にもいいんじゃないか」という、そういう中でやるんですけど、

不登校が出たり、いろいろな状況がありうる現状では、子どもたちに選択肢があって、大きいところとか、地域性のあるところとかというものが選べるような状態であれば、その方がいいんじゃないか、と感じます。

○会 長 ありがとうございます。これも非常に大事な論点かと思います。

学校の規模感の話がずっと出ている一方で、冒頭、小規模特認校実践例を幾つも紹介されました。やはり小さい環境を好んで選ばれる方も一方ではおられる、ということになるかなと思います。そのあたりに光を当てていただいたお話だったかな、と思いますが、いかがでしょう。あまり私の方で、言葉を重ねるべきではないかなと思いますので、ある種「神河町で考える望ましさ」とかについては、いかがでしょう。

○委 員 先ほど「中学校に入ったら、小学校が違っていても、意外と知っている子が多くてびっくりする」というお話をされました。神河町は小さな町なので、妊娠した時から妊産婦へ保健師さんが指導され、言わば「保健師さんは町民全部を知っている」というぐらい、すごくよく関わってくださっている町です。プレママカフェともいうんですけれども、母親学級に、今は1歳までの親子が来ています。大体10名前後なんですけど、来られたら、必ず氏名を言ってもらい、それからどこに住んでいるかを言ってもらいます。そのやりとりの中でお互いお母さん同士が繋がるように「同じ小学校行くよねとか」「同じところに行きますよね」というような声かけをしています。なので、神河町に住んでいると、校区は違うけれど小さいときから何となく「あの人が知っている」ということがあります。そのあとは「きらきら館」という児童館の親子学級や親子教室に参加し、さらにその後は、仕事に行く人は保育園に預け、幼稚園に行く人は幼稚園に預けるという形で、何となくなんですけど、生まれたときから中学校3年生まで繋がっているというのが、神河町の子育てです。神河町としての教育は中学校で1つの完成形を迎えて、高校に進学した後、みんなあちこちへと散らばっていくという形で、生まれたときから中学3年生までが繋がっているという地域の特性がうまく中学校に活かされているのかかなというのを、お話を伺って感じました。

○会 長 ありがとうございます。

○委 員 特認校とか特別地域選択制のことでなんですけど、教育課との話し合いの中でこの制度の導入について言い出したというか、お願いしたのは、実は私たちの学校の保護者です。まだ未就学の子どもがいる保護者の中に「地元は長谷であるけれど、学校の現状を見ると人数がかなり少ないので、寺前小とか神崎小のようにもっと多い人数の学校で学ばせたい」という思いがある方がおられます。けれど「今の地域に住んでいたら校区の関係でそれがかなわない」ということがあるので「特定地域選択制を導入できないか」という感じで、お願いしたことになります。一方、その話し合いの中で、他の保護者の方からは、逆に「ほかの学校から少ない人数の長谷小の方に行きたいっていう保護者もおられる」という声もあがりました。僕自身は直接聞いてないんですけども、その保護者同士の繋がりの中で、「今、寺前小や神崎小に通わせている保護者の中に、長谷小という小さな小学校に行かせたい、そこで学ばせたいという方がおられる」という説明でした。長谷小の状況が本当に「望ましい学級数」「望ましい1学級の人数」なのかはわかりませんが、長谷小のように人数の少ない学校で学ばせたい、という保護者は今もおられます。

○会 長 ありがとうございます。大事なまとめだったかなと思います。「大事に見てもらいたい」という思考と「より切磋琢磨できる環境で育てたい」という思考は、両方あり得る話であって、それを

どう選択されているというのは、家庭かご本人の話という部分が大きいかなと感じます。「望ましきというのはなかなか一律には決めにくいものですね」というご意見が出てきた、と思います。このあたりの考え方について、ある種、共有できるところがあるといいな、と思っています。いかがですかね。要は諮問の2つ目の校区の考え方というのも、結局諮問の1つ目と大分繋がって考えることになってくるのかな、と思います。学校の規模に焦点化した話が出てきたら、また触れていただくことにして、残りの時間は短くなってきたんですが、校区の考え方について、少し頭出し程度にお話ができたらいいな、と思っています。論点整理として、議事をまとめるというのは事務局としては大変だな、と思いますが「望ましい学級数」や「望ましい1学級当たりの人数」について様々な考え方が出たということ自体は、非常に大事な審議であろうと思います。それがどういう形になっていくかというのは、またこの後、校区の考え方等々を含めて、改めて検討ができればと思っています。補足意見用の紙も配布されているところですが、1つ目の諮問内容でまだ言い足りないところがありましたらお書きいただき、3回目の会議ときに、改めて取り扱うことができればと思います。

おそらく2つ目の諮問については、今日の会議の時間内では議論の終わりが見えることはなく、次の会議までに考えてくる必要があるということになっていくのかな、と思います。校区の考え方について、先ほどの報告にありました特認校とか特定地域選択制は、今の校区の考え方を少し柔軟にする試みということになるかと思います。校区の考え方について、皆様のお考えを伺えればなと思っています。今回のところは、皆さんからお話を聞き切る時間はもうないので、ぜひ今、言いたいことがあるよという方は挙手いただければと思います。

○委員 校区をどう考えるかという話ですが、現在、それぞれ小学校が3つあって、それぞれの校区に分かれてそれぞれの学校に通っています。特定地域選択制という制度を使えば、それを飛び越えることはできるんですけど、ここで考え方を問われても「その校区をそれぞれ学校に望ましいと言われる人数になるように切り分けるよ」みたいな話になってきますよね。現在の校区が決まっていて、それぞれの学校が、その学校の人数で運営する状況の中で、我々に校区のあり方を問われたところで「何を話したらいいんですか」というのが正直な思いです。「校区を越えていけるようにする」とか「望ましい人数がこの人数だからこの人数になるように、例えば、寺前小の校区の子らを分割して、長谷小に多くの子どもが行けるように長谷小の校区にいつてもらうことにしますよ」のような、結構激しい内容を考えろと言われているのかな、と認識してしまうんですけど、どうでしょうか。

○会長 諮問内容にかかる話にもなるかなと思います。

○委員 旧町の時の話になりますが、私が中学校に入学して思ったことがあります。「町境では隣同士であつても家一軒の違いで4キロ歩いて小学校に行かなければならない一方で、500mで小学校に行く事が出来、すぐ近くには中学校もある」ということを聞いて「どうしてなのか」と思ったのですが、それが小学校区だという事を知りました。ただ「家一軒の違いだけで学校区が区切られているというのは何かおかしい話だなあ」と、その時からずっと思っていました。越境入学という制度があれば、例えば4キロも歩いて行かなくても、1キロほど歩いたら学校に行けるようにできるのでは、という考えがいまだに頭の中にあります。小学校区という考え方をなくしたらどうかな、ということ、考えているかなと思っています。

○川上 ありがとうございます。事務局の補足をいただいてもいいですか。

○事務局 お答えになるかわかりませんが、第1回目の資料で、それぞれの小学校区を色分けし、

現在の3校の通学距離やスクールバスによる通学時間などを提示しております。1つには、通学の時間だったり通学距離の観点。2つには第1回目にも委員からご発言いただきましたが、校区の文化、あるいは成り立ちということを考えて意見をいただければと思います。すぐに3つの小学校をどうこうするというものではありませんが、今後人数が減るということも含めて「どういう校区が望ましいのか」「どういう校区が考えられるか」とか「この校区は神河町としては無理ですね」とか、ということをご意見としてちょうだいいただけたらなというふうに考えております。

○会 長 ありがとうございます。いかがでしょうか。ご意見、考え等々、あればと思います。おそらく皆さんで共有できるかなと思う部分については、論点の1つ目である「望ましい学級数、規模感」ということについては、なかなか1つの結論には至らない、というところですね。様々なご家庭の事情やご本人の思考の問題であつたりとかが関わる中で議論していることです。おそらく国がいう学校規模ありきで校区をどうするかという話にはならないかな、ということ、今、皆さんのお話の流れの中で感じているところです。

一方で、今まで発言を十分できなかったけれど、やはり学校規模を優先に考えて学区をこうすべきだ、というお考えがある方は、もちろんそこを出していただいて構わないと思います。規模ありきではないとする中で、学区の区切り方についてどうしようかな、ということもそれぞれがご意見が在るのかなと思っています。なので、冒頭の繰り返しになるんですが、やや幅の広い観点でご意見出していただくことが大事なところだと思っています。それぞれの委員の考えを、お話いただけると嬉しいなと思います。

○委 員 先ほど来からそれぞれの学校の保護者の方、また地域の方にお話を伺わせていただきました。それを踏まえて発言させていただきます。

「望ましい」ということについて「保護者の立場から方から望ましい」、「子どもの側からみて望ましい」ということを議論しても云々、という意見もあったように思います。私が今思っているのは、もう1つの見方として、学校教育として学校の教員がより良い教育ができる環境の視点からの望ましさから考えていくことが大切なのではないか、ということです。保護者の方も、地域の方も願っている「子どもたちに少しでも力をつけていくこと」、それは「学力」であつたり「人と人との関わりである人間関係力というような力」であつたりだと思うのですが、そのような資質・能力を少しでもつけていけるような環境を大事にしていかなければならないのではないかということということです。

今、小学校教員の養成に関わっています。学生たちには「子どもたちに関わるときに、一番大切にしなければならないのは何といっても授業、一人一人を大事にした授業をしていくんですよ」「今求められているのは、いろんな考え方を持った人たちが、対話的に考えを出し合って、高めていって、合意形成を図っていく、そういうような協働的な学びということが求められているんですよ」という話をしています。そのような授業や教育活動ができる環境、そして、それは保護者の方も望んでおられるのではないかと思います。子どもたちにとってプラスになるような教育ができる条件や環境を、少しでも整えられるような「望ましさ」という視点から考えていく必要があるのかな、と思いました。

○会 長 ありがとうございます。授業をする側、学校運営する側の観点から出していただけたかなと思います。学校の規模と校区はあわせての話になるのかなと思います。皆様いかがでしょうか。

なかなか出しにくいところがありますか。

○委 員 校区を考えるということですが、これまで学校を統合する中でさんざん考えられてきて、現

在の小学校区割になっているじゃないですか。「考えろ」って言われても、どうしようもないと思うんですよ。それこそ、うちも、以前に統合された小学校の一步手前の位置にあります。先ほど話があったのと同じで、ちょうど切れ目に家があるから、今の小学校まで4キロ歩かなければならないんです。その一步向こうの家は統合された小学校の校区にあるので無料でバスに乗っていけるんです。そういう校区の切れ目のあるせいで、困ったなっていうのはあります。そうなってくると、校区があるせいで通学距離が遠くなっている子もおれば、近くなってよかったな、っていう子もいる。そんな総合的な観点から考えられて現在の校区になっていると思います。今後、学校が統合されとかがない限りは、校区というのは我々が考えて決めることができないものと思う。「こちらの学校に行った方が近くなるから」ということで校区の際のところにいる家が、例えば黄色の校区から青の校区に入れようとしたら、逆に黄色の校区の学校の人数が少なくなってくる、という問題が起きる。

教員の方とか区長さんとかを含めて我々のような、いわゆる行政側じゃない人間からしたら、どんな意見を言わせてもらったらいいのかよくわからない。「意見言ったところでそれが通るんですか」と思っています。それよりも、前回も言わせてもらったんですけど、通学の方法であるとか、それにかかる補助とか、安全面の担保に関して、といったところに焦点当てて議論する方がよっぽど有益だと私は思います。

○会 長 ありがとうございます。大事な論点かなと思います。1回目に出していただいた通り通学のことは、無視しては話しにくいかなと思います。

特認校制度とか地域選択制の話でいうと、校区の線引きというのを、どの程度まで固定的なものとみるかですね。現在は3校区に分かれています。今回の会議では、直接統合を議論するものではないという中での議論になりますけど、現在の校区の中で、規模感をどうにかするということになる、「こことここの校区の切れ目を無しにして一つの校区にしましょう」という学校統合の考え方とか、そうではないやり方というのか、例えば「現在の校区を残しつつ、行き来ができる形っていうのを何か考えましょう」というのが、おそらく、冒頭に説明のあった小規模特認校であったり特定地域選択制の話だと思います。そのような選択ができる形というのをどう考えていくのか、とか、今のよういきなりした小学校区ありきで学校規模の話を考えていく、というふうにするのか、といった、大きく異なる考え方を次の会議で議論していくことになるのかな、と理解しているところです。ただ、今回この場で初めてこの2つの仕組みについての詳細な説明がありましたので、なかなか消化しきれないところもあるかと思います。私も途中で、事務局に一つ質問をしましたが、ある校区を行き来できる仕組みを考える中で2つの案が出てきているわけです。もう1つの案というのは多分「今の小学校区は残しつつ、自由選択の形をとって違うところに行ってもいいですよ」という、極端な考え方です。「町内どこの学校にでも行ったらよろしい」という、自由選択と「小学校区はきっちりと決めておきましょう」という両極端の制度の間に、校区についてのいくつか選択肢があるという考え方になるのかなと、理解をしています。

もうこういう時間帯にもなっていますので、次回またこういう点について、検討を進めていくことになると思いますが、少しその仕組みの使い方についての整理を、事務局で準備していただく必要があると思います。今日新たに説明があった制度について、どういういいところがあって、どんな問題があるのか、ということについては、理解がなかなか追いつかないところがあると思いますので、ここは事務局に整理をお願いしたいと思います。校区の線引きをどうするかについては、通学の話とどうしてもセ

ットになってくるという部分は大事な論点かなと思います。線引きの自由度だったり、線引きのあり方を考える上で、こういうところが論点になろうと思いますが、何分アイデアがあれば、発言をいただければと思います。実際に町内いくつか学校をご覧になっていたり、近隣の学校を経験されている経験のある委員の方々含めてお話いただければと思いますが、いかがでしょうか。

今日のところは、やや出尽くしている感というか、次までにちょっと考えましょう、という感じですかね。

それでは一旦、今日、予定をしておりました討議の部分については締めさせていただいて、進行を事務局にお返します。

○事務局 活発なご議論、どうもありがとうございました。

第3回目と、第4回目ですが、3回目が12月15日月曜日、午後7時から、第4回目が、来年1月19日月曜日、午後7時から、今回と同じ会場で開催いたしたいと思っています

○事務局 当初スケジュールでは、12月の第3回目は、「神河町立小学校及び中学校における小中連携、接続の考え方」の議論をいただく予定でございましたけれども、次回についてももう少し校区の考え方について、ご議論いただいた上で、小中連携についてもご議論いただくということで、スケジュールを少し修正させていただきたいと思いますので、ご了承よろしく願いいたします。

○事務局 それでは閉会につきましては、副会長からご挨拶をいたします。

○副会長 本日も大変出にくい時間にも関わりませず、また長時間にわたり、それぞれのお立場からご意見を出していただきありがとうございました。今回の本審議会においての諮問は大きく2つございました。1つは、文科省で、学校規模(学級数)において、適正規模としての考え方がありますが、あくまでもこの地域である「神河町の小・中学校の望ましい学級数、あるいは1学級あたりの望ましい人数」です。また2つ目の諮問は「神河町立小学校の校区の考え方」ということで、こちらもこの地域限定で考えていただくものです。

皆さんにご議論いただきました中で、冒頭では学校関係の方々から、ご自分の経験を踏まえて、少人数の学級、或いは多人数の学級、また複数学級のある学校におけるメリットやデメリットについての話がございました。

また、地域や保護者の皆様からは「望ましい学級数や学級の人数を一律に考えることは、なかなか難しいのではないか」といったようなご意見が出ました。また2つ目の小学校区の考え方については、学校規模ありきでは難しいのではないか、といったご意見があったかと思います。

第3回目は12月15日に予定されています。一段と寒さも厳しくなると思いますが、次回もまた出席いただき、活発な議論をしていただくことを祈念いたしまして、本日の会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

令和 7 年 11 月 14 日までに提出された補足意見（3 名）

（以下の補足意見は、提出されたものを、そのまま打ちかえて掲載しています。）

補足意見①

補足意見等

◎神河町立小学校の校区の考え方

- ・旧町に 1 校は小学校があった方が良いと思います。
それぞれのコミュニティ等の現状を考慮して。

補足意見②

@学校経営について

- ・学校が多くあれば、費用がかかる。
通学費はどうするのか？

補足意見③

@神河町立小学校の校区の考え方

- ・長谷小学校で令和 9 年度から導入を考えている特定地域選択制は、あくまで教育課と一部の保護者の提案であり、保護者の中には自由選択制の導入を求める声もあります。
しかし他の小学校では校区問題が無いとして、他の校区から長谷小学校へ通学が出来る自由選択制の導入は難しいとの回答でした。
保護者同士の意見交換では神崎、寺前から長谷小学校に通わせたいとの意見もあり、子どもたちのためにも自由選択制の導入が求められるのではないかと思います。